

## 社会科部会

坂爪 邦雄

### 子どもから出発する 自主編成を取り入れた授業づくりを

多忙化や学習指導要領のしぼりのなかで子どもたちの視点に立った実践が足りなくなっています。それでも職場には子どもたちと楽しい授業をしたいという先生がたくさんいると実感しています。どなたでも参加できる公開講座をおこなってきました。官製研修では学べない学習会をおこなっています。その成果は東京教研社会科分科会に反映されました。三つの報告を紹介します。

#### 教科書を見る目を鍛え、主権者を育てる

新学習指導要領で教科書が大きく変わりました。変更の一つに「小学校6年生からの憲法先行学習」があります。これまでの「歴史→政治→国際」が「政治→歴史→国際」の順に変更されました。「日本国憲法」の歴史的品格を考えたとき、歴史学、近現代史学習を先行させることは重要です。「日本国憲法」が戦前

の日本のあり方に対して、様々な反省がこめられ、国民の多くの希望が込められているという憲法の成立を学ぶ意義ははずせません。教科書分析をふまえて、戦前・戦中の歴史では、障がい者差別を扱い、明治憲法と日本国憲法の比較などをへて憲法学習にむすびつけていく壮大な実践報告でした。

子どもの実態から出発し実物にふれ実感をもった学習を

子どもたちが年々「幼く」なり、他者や周囲への関心が薄れている、生活体験の乏しさが影響しているのではないかと授業者は感じていました。小学校4年生の「農家の人々の仕事」を子どもの生活と直結する学習として組み立てました。総合ともコラボしてまとめでつくった「絵本」のレベルの高さに子どもたちの主体的な学習の成果が感じられました。ICT教育が叫ばれていなかで、実物に

ふれ、普段触れているもの再発見する、実感を持った学習、人々のぬくもりや、思いが伝わり、社会認識を育てる学習にこだわった実践です。

#### 在日朝鮮人教員の社会科授業

報告者は、在日韓国朝鮮人であり公立の中学校教員です。日韓関係が政治的に悪化させられているなかで、自分史とも重ねながら中学校歴史の授業の中で朝鮮・韓国と日本との関わりを教えるという希有な報告です。在日韓国朝鮮人とは何か？参加者たちの理解を深める報告から始まりました。「在日」「朝鮮」「コリアン」という呼称の問題、年代によって朝鮮・韓国観が変わってきていることなどを考えさせられました。「朝鮮通信使」の授業では、「平等な国どうしの交わりで大切なことは何か？」を生徒と考える授業を進めました。報告者そのものが、教材となり生徒たちに大きなインパクトを与える報告でした。

今年度は、評価のあり方も取り上げ、社会科教育でつける力を考えていきます。

(東久留米・久留米中)